

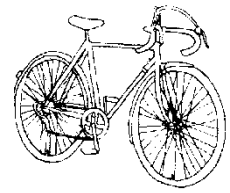
まちネットワークよりい まちネット寄居 私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

さあ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

地域、町、社会の課題解決に向けて

さあ、地域力の拡大へ再スタートしよう



2015年4月26日投開票の一番身近な町議会選挙は58.78%、6割弱の投票率でした。統一地方選挙での寄居町議選の投票率は、依然強固な地割選挙であっても、年々低下しています。2007年69.81%、2011年66.67%から一気に58%代へと歯止めがかかりません。政治離れはこのまま加速度的に進行してしまうのでしょうか? 様々な理由、原因はあると思いますが、「だれがなっても同じ」「変わらない」「わずらわしい」「関心ない」など、町民である自分たちの首を絞める結果に繋がっていきます。

今回、まちネット寄居での擁立はできませんでしたが、新たな一歩をとるという思いで、無所属でのネット会員候補者を支援しましたが、一歩及びませんでした。すでに選挙後、会員の皆様へは総括の報告をさせていただきましたが、大変残念な結果でした。しかし、選挙に取り組んだことで、まちづくりへの意識の広がりを見張るものがありました。新しい地域の力を結集して、これからのまちづくりへ新たな1歩に繋げていきたいと思えます。

自分が知りたいことからスタート

まちネット寄居では、2015年度の活動計画に沿って、私たちの暮らしに直結した課題でもある、揺らぐ第一次産業の生産基盤、再生可能エネルギーへの取り組み、20年後の団塊の世代が後期高齢者となる社会保障への問題、TPP交渉ほか、身近な生活の課題に対し、現状のしっかりした問題の把握、私たちが地域でできる取り組みのヒントなど学ぶための学習会、研修会、講演会などに取り組んで行く計画です。誰かにお任せではなく、深刻な事態が着々と進行している今、まちネット寄居の理念でもある「私発」で、一人一人が積極的に働きかけながら、仲間作りと地域の課題解決のための力を少しでもつけていきたいと思えます。ぜひ、ネット会員の皆様からの提案、問題提議、このような内容の学習会、講演会をといた声をお寄せください。まずは自分が知りたいことからスタートしませんか。

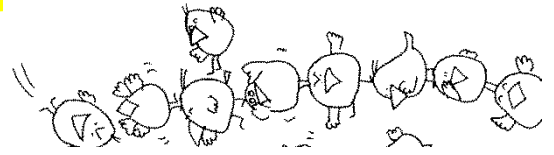


2015年度活動計画

- 「町民のための開かれた議会」を進めるための活動に取り組みます。
- 脱原発、自然エネルギー活用推進のための活動に取り組んでいきます。
- TPP 交渉の動向に今年度も注視し、地域のつながりをさらに強める活動を進めていきます。
- いましか聞けない戦争体験のお話を継続します。
- ダンボールコンポスト普及活動及び完成した堆肥活用へのステップアップを進めていきます。
- 地域の小さな循環作り、新しい人との出会いなど、コミュニティの場を広げるために、家庭菜園講座を継続していきます。
- 町議会の傍聴に行きます。
- ネット通信は年4回の発行を目指します。
- ネット会員の親睦の場を設けます。
- その他、基本方針に沿った事柄へ対応していきます。

寄居町議会議員選挙を終えて

ああ、統一地方選挙寄居町議選
転んだけどただでは起き上がらない



6月半ば現在、転んだが多くのものを得て、また、地域の活動にかかわっている。

先の寄居町議選の結果の翌日「惜しかったね」「悔しいねえ」「次だよ、つぎ」出会う人たちからかけてくださった言葉。辛い日々が続いた。

そして、ネットの定例会。私を後押しし続けてくださった核となったネットの人たちに心からお礼を申し上げたい。が、選挙総括の議題に内心、逃げ出したかった。定例会で強く感じたこと。

ネットの活動と選挙とが一つの塊になってしまい、疲労感と虚脱感が上書きされ、結果、冷静な思考を鈍らせ、ネットの活動そのものまでも総括するような意見を聞いたことである。

ネットの活動は、先の総会ですでに承認され活動計画に沿って実施すべき問題。でなければ1年間の「評価」ができない。一方、選挙の「総括」は、結果をどう受け止め整理するかの問題。二つに分けることで、文字通り分かりやすくなる。ここでは、当事者として選挙を「総括」する。それが一会員として会員の皆さんへの責任説明になるかな、とも思う。

次の二つを政策とは別に自身の柱として掲げ選挙に臨んだ。一つは、私の力を地域と町に貢献するために。二つ目は寄居議会を民主的な動きに向けるために。

前者を具体的に言うと、資産家でも、名士でもないが、思いがある。そんな人間を支持し応

援する地域として、次の世代に向けて実践し引き渡したかった。もっと言えば「自分発」を実践し共感を得、それが地域に広がり、新たな地縁が生まれる。さらに言えば、その縁を地域自治に結びつける。

私は出陣式で言った「ここに立つことができた多くの皆様のご支援に感謝します。なによりも新しい縁が生まれたんだ、という実感に鳥肌が立っています」。自分発の思いがみんなの力となり、みんなが自分の思いを私に向けている、この事実。私はこれまで体験したことのない感激に熱くなった。

最終日、地元で「議会への道は皆様のご支持が絶対条件です」そして「義を見てせざるは勇無きなり」と結んだ。

私にとって義とは、地元と地域社会に役立つこと。それが目の前にありながら黙っているのは勇気がないことだ。皆さん、新人で未知数でよそ者かもしれないが、勇気をもって一票を託してください、と言ったように覚えている。

「こんな格差、なにか変だ」「(社会、地域、働く場、家庭を)変えなくては」それぞれの義に対し、どのような姿勢で向かうのか。トップダウンに従うのか、ボトムアップの輪を広げる努力に向けるのか。「自分発」から「地域自治」へつなげる手法。改めて自分の中に道筋を整理することができた選挙でもあった。

開票結果の翌日早朝、軽トラックでやってきて「選挙期間ずっと付き合ってきた。大北さん

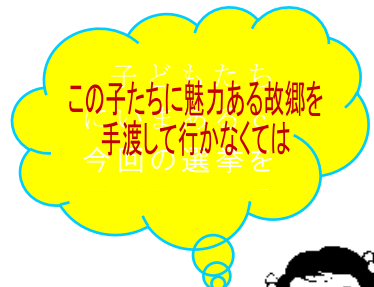
の考えは議員でなくたってできる。これからもこの地区のために頑張ろうよ」と在の人が、明快に総括してくれた。

ある人はお茶のみに誘って来て「主張に説得性があった。結果に対して、何も臆することはない。堂々とこれまで通り、その態度を見せてください」と爽やかに総括してくれた。

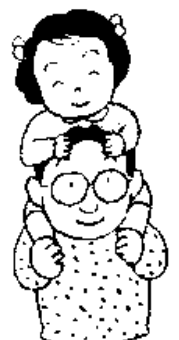
私には力がある(誰もそうだが)。一つは生まれてから自身で培ってきたパーソナリティともいべき力。もう一つの力は、この寄居に転居して、様々な人たちから得た力。この二つを合体した「いまの自分」を地元と町に問う選挙。ネットの在り方を問う選挙ではなかった。

転んだけれど多くを得たことの総括を締めくくると、自らの力を地域に、町に、政治に、そして、自らの存在を味わうことができるような生き方に、仕事の仕方に、向けようとしている人、そのような自己実現を押し潰す力にだけは、使わない。

大北久勝



子どもたち
この子たちに魅力ある故郷を
手渡して行かなくては
今回の選挙を



強固な地割り選挙

選挙に関わった感想を一言で言えば、“地割り選挙の根深さを、思い知らされた”。

地割り選挙であろうと、結果、議員になった人物が、住民の視点で住民の幸せのためにしっかりと働いてくれさえすれば、結果オーライなのかも知れない。しかし、毎回、どの地域からも良い人材が推挙されるとは限らない。2040年には、20～39才の女性層が半減するという予測のもと、消滅可能性自治体リストに入れられた寄居町。そのことを、歴代の議員、新人議員はどう捉えているのだろうか。人口減少は、とうに予想されていたはず。推挙してくれた地域ばかり向いてきた結果が、これではないのか。どれだけの危機感を持って、議員として町に働きかけてきたのか。常に、住民ニーズに関心を怠らない自治体は、様々なモデル事業への反応も早く、そもそも、国のガイドラインから多少ずれても、その自治体にフィットした政策を打てる強さと、先見性という意味での賢さを持っているように思う。

住民ニーズを的確に把握できることが、自治体として生き残る最低限の条件になっていくだろう。ともかく、寄居町も、これまでの検証をしっかり行い、腹を割って住民と話し合いながら、協働の道を探る努力をして欲しいものである。「家を建てるなら寄居町！」と思われるためには、教育・福祉・医療の充実は欠かせないが、それだけでは、不十分。ライフライン的な暮らしやすさだけでは、暮らし満足度は、合格しない。その他の領域でも加点できなければ、永住適地として選んで貰えないだろう。大概の住民が心地よく感じるメソッドを探し当てていく。その行程も町づくりには重要であると思う。少ない予算を、大きく活かすには、住民との協働が欠かせない。そういう意味でも、大北久勝さんが当

選に及ばなかったのは、心底、残念であった。

Y.S



選挙公報のネット公開を

今回の選挙を思い返して一番強く感じたこと。政治的な難しいことは分からない。恥ずかしいけど、背伸びせず私の日常の感覚から言うと、一体どんな方達が立候補したのか？ほとんど、全く分かんなかった～。近所の噂話で、自分の地区から立候補する人はどこに住んでて、何をしている人がぐらいいは分かるけど。

あ、そうか。私は新聞を講読していないから、そこに折り込まれるはずの選挙公報を読まなかったからなあ。

それで選挙公報について「広報よりい」でお知らせしていただろうと思い、WEB版を調べ、新聞取っていない人はどうしたらいいの？と、遅ればせながら選挙管理委員会に聞いてみた。希望すれば郵送してもらえたそうだ。他には町の主たる施設に置いてあったとも。ついでに聞いてみたら、寄居の世帯数は14,038、折り込み数は約13,900部だったと。このことで、大雑把にいつてしまえば、ほとんどの人が選挙公報を手に入れたわけだ。

でも、負け惜しみのようなけど、新聞取っていない人ってこれから増えると思うのだ。ある民間の調査団体の最近の調査*（首都圏40キロ：県内・霞が関からださいたま市くらいまでの範囲の3,000人対象）によると、30代の40%、40代の60%しか新聞を定期購読していないという。そうすると、ゆくゆくは寄居町でも新聞をメインにして広報を配

るのは不都合が出てくるんじゃないかなあ。それに、今やほとんどの若い人、多くの中高年だって、インターネットで情報収集するのがツツ一。

だから、町議会の記録をインターネット公開してほしいけど、選挙公報もネットで公開するようになったらいいなあ。

それこそネットで検索すると、選挙公報.comという学生が中心に活動しているサイトで神奈川県二宮町は（有権者約25,000人、わが寄居町は約28,900人）選挙管理委員会が選挙公報をネットに掲載していたというのを発見。まだまだ、こいう動きは地方選挙では県クラスが主だけど、小さな町だってやっているとこもあるんだね。

たとえば立候補期間からネット公開までの日数が少ないなど、実現にはハードルがあると寄居町選挙管理委員会の方が言ってたけど、2年後の町長選は無理でも、4年後の町議選までには選挙公報のネット公開って出来ないものだろうか。

*参照：「新聞と折込チラシはまだ有効なツールであるか？」株リサーチ・アンド・デベロプメント 平成27年

矢島京子



小石を投げて

「限界集落」という言葉は聞いていたが、「自治体消滅」だなんて。まさか、ね。けれど、選挙カーで回ったこの地域の住宅地には、他人事でなく、その不安を十分感じさせるものがあった。

今は社会人となった我家の子どもたちが育つころ、造成された土地に次々と住宅が建ち、庭先には翻る洗濯物、駆け回る子供の姿が見えた。小学校では教室が足りず、プレハブの校舎が建てられたものだった。二十年が過ぎた今、潮が引くように活気も去ってしまっている。市街地の商店街は言わずもがな。鳴り物入りでHondaは来たものの、町内の様子はあんまり変わってないみたい。

秩父の山々を背に荒川の瀬音を聞きながら育った同級生たちも、集まるとみな「寄居LOVE」だ。「消滅」なんてとんでもない。何とか寄居町に元気になってもらいたいと思うものの、これといった決定打は今のところ無さそう。寄居育ちの私にしたって、見かけどおりの重い腰だ。

そこに、大北さんが手を挙げた！企業誘致や施設整備も必要だろう、けれど、社会構造が急激に変化していく中で「協働」の仕組みを築くことこそ、寄居町が活性化される道だと…。形つくる細胞の一つ一つが協力して働き出せば、身体全体も生き生きと元気になるだろう。そんな大北さんの熱意に触れて、この重い腰もすっと持ち上がったのだった。

知り合い、友人に声をかけ、選挙カーでマイクを握りながら感じたことは、「伝えること」の難しさだった。静まり返ってマイクの声だけが響く住宅街、畑仕事の手を休めて答えてくれた方、反応は様々だったが、どう訴えどう呼びかけたら

この垣根を越え壁を超え、地域の人たちの気持ちに届くだろうか、伝えることができるだろうか、と。(にわかウグイスの悲しさ、失敗もありました……たくさん。)

皆の頑張りもあと一歩、結果は惜敗だったが、これまでとは別角度からの一石を投じることができたと思いたい。グローバルの波に飲み込まれようとしている「食」や「医療」、不安でいっぱい「介護」や「年金」。折しもギリシャでの財政破綻の危機が伝えられている。私たちの暮らしは大丈夫なのだろうか。

投げられた小石の水輪が静かに広がっていくかどうかは、私たちが「知ること」「気づくこと」から始まると思っている。

田中洋子



選挙活動から 見えてきたこと

今回の町議選で、私たち住民の声を町政に反映してくれる最良の候補・大北さんがあの立派すぎる庁舎の議場に立てなかったことが残念でなりません。わたしも微力ながら、大北さんのことをより多くの人に伝えたいと思い、候補者ビラの配布などのお手伝いをしました。この応援活動を通して見えたことを少しだけ書きたいと思います。

東西に長い寄居町の関越沿いの用土地域と赤浜地域を中心にビラ配布をして、今日本が直面している問題が寄居町でも着実に

進行していることが実感できました。昼下がりの住宅地には人の往来もほとんどなく、声を交わしたのは後期高齢者と言われる人たちだけでした。ある女性の方は“ここは店もなく交通手段もなくとても不便なところだ”とおっしゃいました。バブル期に建設された200戸を超える坂に並ぶ住宅地には、高齢化した団地の問題のすべてがありました。列挙すると、商店や公共サービスなどの日常生活に必要な施設がないということ、車を運転できない人の移動手段がないこと、空き家が多いこと、単身住まいだと思える家が多いこと、手入れの行き届かない家の多いこと、住宅火災が発生していることなど。高齢化が加速度的に進む現在、今すぐにでも対策をしていかなくてはいけない問題ばかりです。

わたしは寄居町民になって、この春で21年です。選挙の時だけ寄居町民なのだと思うくらいで、この町に特に愛着もなく、住民であることに自覚的でなく過ごしてきたように思います。今自分の住むところが、安心して楽しく暮らせるところであるのか、ではどうするのか、課題は困難ですが、自分ができることから協同してやっていけたらと思っています。

小金澤千代子



議 会 傍 聴

2015. 6月議会

4月の町議選後、はじめての本会議。どんな雰囲気かと、6月8日、第1日目の傍聴に出向いてみた。相変わらず、傍聴者にはとても長く感じる暫時休憩を幾度か挟みながらも、落ち着いた（のんびりした？）雰囲気だったが、傍聴者は、多いときで4~5人だった。

おっ！議会改革か!?!と関心を惹いた「議会傍聴規則一部改正・・・について」とは、乳幼児・児童の傍聴席への入室制限に関する項の削除を求める議案だった。「子育て世代の傍聴促進のためにも・・・」という議案提案者神田議員の説明があり、その場で、全会一致で可決された。（願わくば、委員会傍聴に委員長の許可が必要という項についても、早いところ、改正して欲しいものである。）

日本の里風布館の指定管理者選定について町の説明があった。1月の現場説明会には町内外から15団体の参加があり、そのうち、実際に応募したのは3団体（町内2、町外1）で、加点式の総合評価から、町外の3社共同事業体（小田急デパートサービス(株)、(株)日比谷花壇、(株)サンワックス）を選定したというもの。本会議での審議結果は、可決（議会 HP）。地元の NPO のような団体にも頑張っただけだったが、観光立国を目指すなら、都会人の視点と包括的で緻密な計画力に期待するのもいいのかも知れない。ちなみに、日比谷花壇とサンワックスは他社との共同事業体として深谷市のパティオも手がけている。深谷市は、ねぎ、花、渋沢栄一、ふっかちゃん！と市民ならずとも、すぐに思

いつくが、それら全てに、市民が様々な場面で大勢関わっており活躍している。10年以上前より時間をかけて市民との協働を膨らませてきた深谷市の努力が、ようやく実を結び始めたという印象である。さて、寄居町は？ 観光に対する全町的な盛り上がりというか、役場職員も住民も、向かう方向のイメージの共有がないと、どんなに優良企業の進出を得ても、町全体の魅力度の底上げには繋がらないだろうと思う。日本の里風布館は、なんと、7月下旬にリニューアルオープン予定とのこと。楽しみにしている。

また、埼玉県健康長寿プロジェクトの寄居版として「プラス1000歩運動」が補正予算の中で審議（可決）された。普段より、毎日1000歩多く歩くという健康づくりの啓発事業である。7月22日が申込み〆切だとか、関心のある方は、町のお知らせを見逃さずに、取り組んでみてくださいね。それにしても、議会通過を見越しての準備のよさに感心しきり。

Y.S



言わせて これって住民自治よね

現在、私たちの地域周辺での太陽光発電所は大きなものから家庭サイズまで様々な形で取り組まれています。（しかし国レベルでのエネルギー基本計画では、原子力を重要なベースロード電源としています。これらの発電が東電への売電だけではなく、地産地消の発電所となれば、地域の経済活性化に繋がっていくことは確実なのに）そんな中、男衾地区に隣接する深谷市本田地区内に8000ポルト規模の深谷太陽光発電所工事が計画され、この間、計画地の平地林を伐採し、盛土高さ15メートルと見上げるような高台に太陽光パネルの設置工事が行われています。これまで残土搬入に際して、早朝よりのダンプ出入りや盛り土からの土ほこり、道路の損傷など地域住民に大きな影響を与えてきました。なかでも、残土搬入時には、ダンプが連なり、登下校の児童、生徒、通勤の車などに多大な迷惑をかけています。5月の半ば、工事に隣接する今市区民よりこの林地開発事業への不安や不信の声が高まり、今市区民会館に有志が集まり、5月28日、埼玉県寄居林業事務所に、事業者による説明会を実施するよう要望に行きました。事業者は快諾。6月13日に説明会が実現しました。（説明会に先駆け現地見学も開催）地域住民の自主的な声から、公的な「区」が正式に支援し、（深谷市第6区自治会、黒野谷維持管理組合などの参加も）地域全体の課題として、地域住民の行動意識が生まれました。このことはまさに「住民自治」、高く評価できることなのではないでしょうか。その後の経過観察等、自主的な活動が継続される予定です。 秀子



パワー全開 家庭菜園講座

畑から元気をもらおう

今年度も家庭菜園講座が始まりました。現在、登録者は23名。今年からは、野菜摘み取り体験ファミリーも仲間入り。1家族が参加登録。毎月1回、第3日曜日開催。季節の野菜たちのおみやげも。そのおいしさに皆びっくり。



4月、5月、6月の講座からにぎやかな光景



information

お知らせ

ネット会員募集中
いつでもどうぞ!

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ・・・大北 (582 - 4073)



編集後記

2015年もう半年が過ぎる。ほとんどの運営委員が町議選に取り組んでいたため、今年度の活動計画への取り組みが、後半からとなってしまった。今回の選挙での新人町議の選出は、3名のみ。議会改革への道は、まだまだ遠い。第一本気でやる気があるの？

7月5日に行われた群馬県知事選挙の投票率は、過去最低の31.36%。これで民意と言えるのだろうか。これは、国会レベルでもいえること。4割の投票で、その半分の支持ならわずか2割でもすべてを決めてゆく。報道機関がおかしいと思いつつも、政治に背を向けている多くの国民の無責任さは、更なる危機を呼ぶのではないかと。H.O

